

河北新報朝刊「版」の説明

1) 版とは何ですか？

簡単に言うと、新聞を作った時間を表す数字です。

河北新報は、宮城県を除く東北5県に配る新聞を13版

宮城県内に配る新聞を16版

大きなニュースを入れるために特別作る新聞を16版C

と呼んでいます（下の地図参照）。

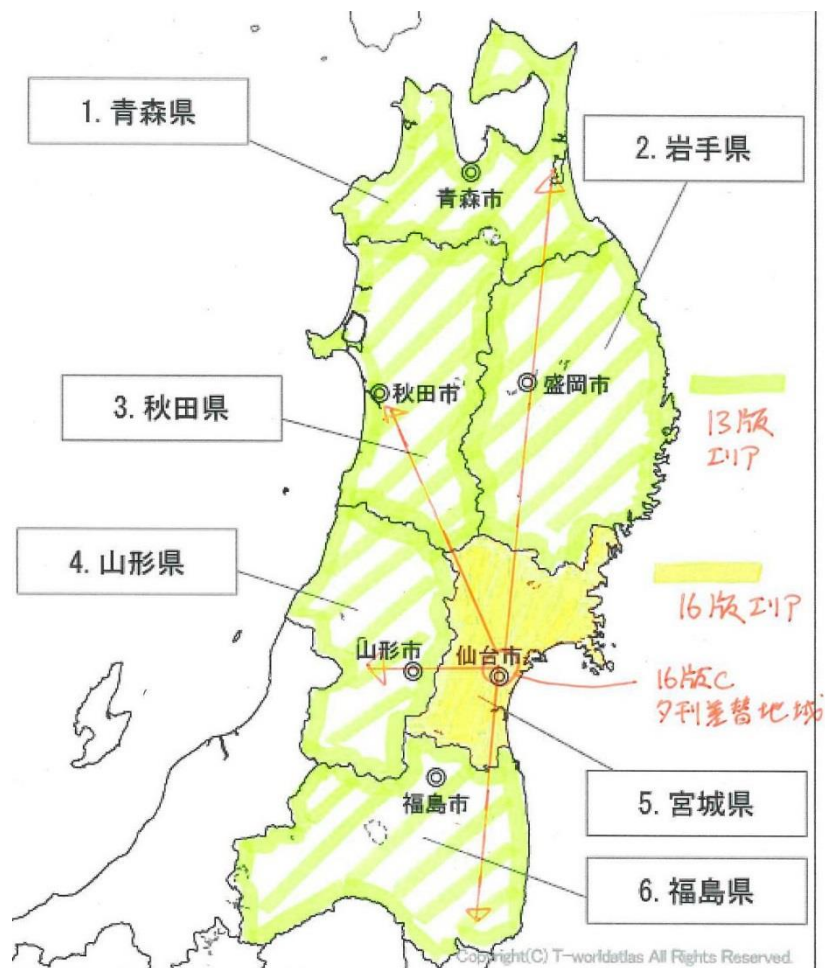
1面の左上に版が書いてあります。

2) 「13」や「16」の意味は何ですか？

「13」「16」「C」というのは、単なる記号なので、あまり気にしないでください。

※数字について、宮城県に届く全国紙の版数よりも数字を大きくしたとか、夜中の12時に作業を終えたので12版だとか諸説ありますが、詳細は不明です。かつては、河北新報に「2版」「12版」「15版」などもありました。

どの新聞でも、数字が大きくなるほど、新聞を作る時間が遅い（=新しいニュースが載っている）と判断してください。



3) なぜ版を替える必要があるのですか？

河北新報が各家庭に届くまでの行程は以下の通りです。

①紙面を作る → ②印刷する → ③トラックで販売店に配送する
→ ④バイクや自転車で各家庭に配達する

河北新報は、北は青森県の下北半島、南は福島県いわき市までトラックで運んでいます。配送に何時間もかかるので、遠い地域は早く印刷して、早い時間に運び始めなければなりません。

逆に宮城県や仙台市内は、配送時間が短くて済むため、夜遅くまで新聞を作る(＝より新しいニュースを入れる)ことができます。

これらの事情により、河北新報朝刊は早め(午後10時ごろ)に作る新聞と、遅め(深夜0時ごろ)に作る新聞の2種類を作っています。

さらに大きなニュースが飛び込んできた時は、「B版」や「C版」という新聞を特別に作ります。河北新報印刷センター(仙台市泉区)の近隣地域にだけ配達します。

「B・C版」を配達するエリアは、印刷する時間によりその都度変わります。

夕刊は仙台圏(仙台市と近隣市町)で発行しています。大きなニュースが入れば「B版」や「C版」を作って、できる範囲で新しい新聞を配達しています。

4) ソチ冬季五輪の開会式は何時に行われたのですか？

版によって記事の内容や写真が異なる例として、平成26年2月8日のソチ冬季五輪開会式の紙面を掲げています。開会式は日本時間2月8日午前1時すぎに始まり、午前4時ごろに終わりました。

開会式のはるか前に紙面の締め切りがある「13版」は、五輪マークと人間が写っていて、雰囲気がわかる程度の写真を使っています。

「16版」の締め切りも、開会式の前だったので、会場の写真でごまかしています。観客は入っていないようです。

「16版C」で、ようやく開会式の写真が入りました。参加国の中で最も早く入場するギリシャ選手団の写真です。日本の入場は後ろから2番目と大変遅く、締め切りに間に合いませんでした。